

碓井講師の 「読むガイダンス」



碓井 裕史 講師
水道橋本校担当
Zoom配信担当

た。今では「基礎+合格コース」「合格コース」「年金キーパー+中上級コース」「中上級コース」「直前講座」などすべての講座をカバーしています。受講生の皆さんの都合に合わせた勉強方法を選択していただき、合格への最短ルートを選んでください。

Zoom 講義の特徴

1 いつでもどこでもリアルタイム

Zoom 講座はネット環境さえあれば、パソコン、スマホ、タブレットなどを使って受講することができます。自宅でも、会社員の方であれば出張先などでも、ネット経由でリアルタイムに講座を受講することができます。

通学する時間を気にする必要もなく、通信のタイムラグなども気にすることなく、ストレスフリーで受講できます。

昨今のように、感染症が蔓延している状況でも、感染を心配することなく安心して勉強することができます。

2 ビジュアル資料もリアルタイム

LECで提供している「動くねこレジ」の動画画像や

講師が用意するビジュアル資料なども大画面・高画質で見やすい画面で視聴することができます。

3 選べる受講スタイル

Zoom・通学・通信のコースは乗り入れ自由（一部不可のケースがあります。通信・通学が乗り入れ不可の場合でもZoomで乗り入れできる場合があります。パンフレットでご確認ください）。受講生の皆さんの都合に合わせた受講ができます。なお、2023年10月からは水道橋の教室で発信を行うこととなりました。ぜひ、教室にもお越しいただければと思います。

4 フォロー

Zoom 講座では、通学講座と異なり、受講生の皆さんとその場で顔を合わせて相談や質問を受けることができません。これをカバーするために、「テレホンチューター」や「教えてチューター」などのフォローの仕組みを整えていますので、活用していただければと思います。

合格までの道程

1 目的をはっきりさせよう

社会保険労務士の資格は「開業」「法人社員」「勤務」「その他」とさまざまな活かし方があります。ご自身が何を目標にして「資格」を取るのかを明確化することが、ご区画への一番のモチベーションとなります。

2 相手を知ろう

①社会保険労務士の試験は「法律」の試験です。よって「法律」考え方が求められますが、法学部

出身の方とはかく、それ以外の方（私も含め初学の方）は最初は言葉の問題で戸惑うことが多いと思います。私も勉強を始めた頃は「及び」「並びに」「又は」「若しくは」など似て非なる言葉に悩みましたが、LECのテキストは、条文の後にその内容が解り易く説明されていますので、いつの間にか、「法律」の考え方が身につくようになりますので安心してください。

②「選択式」と「択一式」

試験の当日は、午前が選択式、午後が択一式の試験となります。

午前の選択式で一定の基準（原則各科目3点以上）を超え、午後の択一式の試験で一定以上の点数を獲得すると合格ということになります。

「『選択式』と『択一式』それぞれ別の勉強法がありますか?」という質問を受けることがよくありますが、私の考えでは、ここ数年の労働一般の選択式の問題を除けば、分けて勉強する必要はないと思います。理由の一つをいえば、選択式で出た問題が何年後かに択一で出題されたりすることがあり、別々に勉強するよりも一つのテーマとしてとらえて、それぞれに対応できるように勉強しておいた方がベターということです。

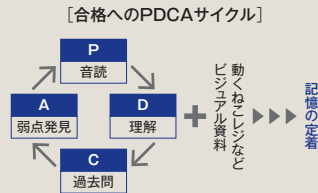
私の講座では、「復習ドリル」という一つの教材を使いますが、あえて選択式対策といえば、空欄に当てはまる「文言」を入れる方式で教材を作成しています。語群の中から選ぶのではなく、問題文の元となる条文、事例などを理解して文言を入れるという勉強法を提案しています。

③法律の勉強とはいうけれど
社会保険労務士の試験の科目は全部で8科目あります。このうち労働基準法、労働一般常識を除けば、すべて「保険」科目です。「保険」のことは良くわからないという方もいますが、逆に言えば、「保険科」目を制することが合格への近道であるといえます。

私の講座では、各科目の勉強の前に「保険」について解り易い説明を入れて、受講生の皆さんの理解に役立つような講義内容としています。

3 勉強法

シンプルイズベストです。下記のPDCAサイクルをしっかりと回すことです。



PDCAサイクルとはP:Plan、D:Do、C:Check、A:Actionという業務改善のセルフマネジメントメソッドですが、試験勉強には大変有効なものです。まずテキストを「声を出して」読む、動くねこレジなどを活用して記憶の定着を図り、過去問で確認して、出てきた弱点を集中的に勉強するというサ

イクルを回すというシンプルな方法をお勧めしています。会社員の方などは経験のあることなので、取り入れ易いと思います。

私の講座では、このPDCAサイクルをベースに、効率的な勉強方法などお伝えしたいと考えています。また、LECでは「ぼち問」というスマホ、タブレットなどでスキマ時間を活用する過去問対策動画を用意しています。通勤、外出の途中の電車の中などで活用してください。

最後に

令和5年（2023年）の合格率は6.4%でした。難関試験であることは否定しません。一方、合格率は受験者に対する合格者の割合ですが、受験者の内容はわかりません。すなわち、これから勉強をされる皆さんと同様の勉強をした人たちの合格率はわからないのです。

これから受験する皆さんにお伝えしたいことは、合格率に惑わされることなく「絶対得点」で「何点」とるかを目標にして勉強していただきたいということです。

例えば、選択式であれば常に3点以上、択一式では今年は45点が合格点でしたので、それを上回る46点、47点を目指す、というように、自身で目標設定し、モチベーションのアップを図ることで、合格がより近くなると思います。

私たち講師もしっかり応援してゆきます。合格という栄冠を勝ち取ってください。